

子宮頸がんワクチンは危険だ 休止を!!

今村直登議員



子宮頸がんワクチンは中止を!

今村 厚労省の専門部会はワクチン接種後の重篤な副反応について「接種時の痛みが心身の反応を引き起こした可能性を否定できない」と発表した。これにより接種勧奨が再開される可能性が出てきた。このワクチン接種後に全国で重篤な副反応に苦しんでいる例が報告されている。安全性や薬効の検証もされていない物であり、接種は即刻中止すべきだ。

健康づくり推進課長 合志市でも重篤な副反応が出ている。しかし国の方針で再開ということになれば、希望者は市役所に問診表を取りに来てもらい、そのときに十分説明し判断してもらう。

今村 製造元のグラクソ・スミスクライン社は、このワクチンは子宮頸がんには効果がないと言っている。仮にあったとしても、その効能は10年以内ということで、実際には何の役にも立たない。こんなものを子どもに接種させ痛い目にあわせ、さらに重篤な副反応で人生を台無しにさせる。

せてよいのか。市長の決断で中止すべきだ。

健康づくり推進課長 予防接種法があり、簡単に中止できない。

市長 課長の答弁のとおりだが、私自身、厚労省に出向いて納得できる意見の交換をしてくる。

この他、私は公用車の点検、メンテナンスについてと体罰の定義について質問を行った。公用車の問題については紙面の都合上割愛する。

体罰問題について

今村 「愛のある体罰」はあるか。

学校教育課長 ないと考えている。

今村 声の暴力(暴言)については、**教育審議員** 体罰と暴言の線引きは難しいが、暴言も体罰と考えている。

今村 体罰は自死につながるという自覚は、**教育審議員** 全国でも例が報告されており、自死につながることもあると考えている。

急げ意識改革!

来海 恵子議員



一頭張っている中小企業表彰制度

来海 市誘致企業等連絡協議会の賀詞交歓会の中で、アベノミクスで大企業は景気が回復しているが、日本の経済を支える90%の中小企業まではなかなか効果が届いていないとの発言があった。合志市を支えてくださっている中小企業の方々に、市が基準を設け、表彰することで企業の信用も増し、業績向上にもつながると思う。

商工振興課長

市内企業の大部分を占め、地元に着目した経済活動を行なっている小規模企業の持続的な発展につながる振興策を展開していかなければならないと考えている。表彰制度については、平成26年度の実施を計画している。表彰制度の具体的な内容として、表彰する項目は、「後継者が頑張っている企業」、「社会貢献が著しい企業」などが考えられる。また、表彰した企業については、地域のリーダー的な企業になっていただきたいので、表彰後のフォローアップ体制を整えなければなら

ないと考えている。

来海 社員を長年雇用し、従業員を大切にしている会社なども表彰の選考基準に入れていただきたいと思います。



商工会と行政の意見交換会

健康都市づくりを実現するために!

来海 「特定健診を受けたら、例えば国保税から1,500円引いたり、合志市内で使える商品券をプレゼントするようなことをすれば、健診率も上がり、地場産業の活性化にもつながるのでは!」と提案したが、

健康づくり推進課長 特定健診開始年齢の40歳と、退職し国保に加入される61歳の方の無料クーポン券配布を26年度も行い検証した上で、27年度に商品券に切り替えたいと思う。

福祉の充実について

濱元幸一郎議員



濱元 重度心身障害者医療費助成制度は、重度の障害がある方を対象に、通院では月額1,020円の自己負担(医療費)支払い、それ以上にかかったものについて県や自治体で補助する医療費助成制度。合志市重度心身障害者医療費助成の利用状況など、現状はどうなっているか。

福祉課長 給付件数1万1,000件、給付金額7,929万円となっている。給付件数、給付金額ともに増加傾向にある。今後とも福祉の増進を図っていききたい。

濱元 この制度について、市民の方から相談があった。通院の場合は1,020円を超える額、入院の場合は2,040円を超える額を自治体が補助する制度になっている。しかし超える額については後から申請して返ってくる償還払い方式となっているが、何かあったときに受診をためらうこともあり、窓口負担なしの現物給付方式に変更してほしいとのことである。お金の心配なく受診できる環境を整備すべきだ。これは制度を利用している多くの人の願い

ではないか。現物給付方式への変更を求める。

福祉課長 現在の方式より、現物給付方式の方がよいと考えているが、現状では困難となっている。

濱元 できないではないではなく、市民のために制度を良くするにはどうするかということを生懸命考えれば知恵も出てくるが、その姿勢が見えない。医療や福祉の充実のため、ひき続き、この問題についても償還払い方式から現物給付方式への変更を求めていきたい。



街路樹管理について!

濱口 正曉議員



濱口 合志市総合計画で「人と自然を大切にした協働によるまちづくり」が提唱されている中、平成26年度以降「街路樹をなくしていこう」という動きがあるがその理由は、**事業部長** 周辺の住民の方から快適な住環境が侵害されているという苦情が寄せられ、平成26年度予算の街路樹管理委託を年1回から2回に増やすという増額を審議する中、地元の理解が得られれば高木から低木へ徐々に切り替えていこうということですが、「なくすということ」ではない。

濱口 街路樹のある路線数と高木の木数、平成26年度予算は、**事業部長** すずかけ・泉ヶ丘線、みずき台1号線等6路線と高木約300本、また予算は748万円である。

濱口 街路樹は夏の緑の陰提供などヒートアイランドの緩和、美しい都市景観の形成などに大きな役割を果たしている。ただ低木化することではなく街路樹の管理改善、地域住民への理解や愛着への啓発、費

用的には多年度発注もすべきでは、**事業部長** 県は、適切な緑化機能の確保、良好な景観の形成、適正な維持管理コストを示している。市のほうも街路樹管理の基本的な考え方を参考に、今後の街路樹のあり方、管理の仕方、そして複数年発注も含めて十分検討していきたい。

健康経営をすすめてはどうか

濱口 NHKのクローズアップ現代で健康管理を個人に任せず、企業が積極的に関与する「健康管理」が目ざされており、自治体にも広がっている報道されていた。合志市でも研究して取り入れてはどうか。

健康づくり推進課長 合志市では、ウエストサイズ大作戦から、さらに進めて西合志地区の小学校単位に5つの「健康ステーション」ができたかと考えているので、ぜひ研修してみたい。



すずかけ・泉ヶ丘路線の街路樹風景